

町の課題を知り、みんなで解決策を考えよう

【積丹町地域情報通信基盤施設（光施設）】

私たちにとって今や欠かすことのできない I P 電話。運用開始から 8 年が経過し、新たな機器への更新が迫っています。

今回は、地域情報通信基盤施設（光施設）の現状と、急がれる更新対策の課題をお知らせします。

- 自己決定・自己責任 -

地方分権時代の 問われる自治体 “3つの力”

「自治力・財政力・行政力」

■ 光施設運用までの経過と現状

約 9 億 2,556 万円（国補助金：8 億 2,556 万円、過疎債：1 億円）を要したこの施設は、専用パソコンやネットワーク機器などと、個人宅に設置の I P 告知端末機や屋外拡声器を光ファイバ網で結んだ施設で、「テレビの視聴」や I P 告知端末機による「町からのお知らせ」、「災害警報」、「全国瞬時警報システム（Jアラート）による緊急放送」、「無料テレビ電話」など、道内市町村でも数少ない多目的な行政情報伝達施設として重要な役割を担ってきました。

<提供しているサービスと施設運営収支の状況>

（単位：千円）

サービス名	利用者負担料金	年度	収入			支出	D 差引
			A 地デジ 使用料	B 施設貸付 収入等	合計	C 運営費	
I P 電話	無料						
地上デジタル テレビ放送	1 世帯あたり 月額 500 円 (年額 6,000 円)	H 27	6,630	4,851	11,481	18,385	▲ 6,904
		H 28	6,474	4,863	11,337	20,195	▲ 8,858
インターネット	インターネット 回線業者との 契約に基づく料金	H 29	6,462	4,666	11,128	14,979	▲ 3,851

※ A：町民の皆さまが負担している使用料（1 世帯あたり 月額 500 円（年額 6,000 円））

B：インターネット回線業者からの光ケーブル貸付収入など

C：故障修繕費、伝送設備移設工事費、保守契約料、電気料、電柱共架料などの施設の運営に要する経費

D：町が毎年度「地デジ使用料（A 欄）」と同額程度を一般財源で積み立てている「積丹町地域情報通信基盤施設整備基金」を取崩して補填しています。

■ 更新対策と課題

平成 23 年度の運用開始から 8 年が経過し、10 年間の機器性能保守年限も迫っていることもあり、近年は故障も増加しています。

また、平成 30 年 9 月 6 日に発生した胆振東部地震では、北海道全域でブラックアウトを経験し、停電時や光ファイバ網損傷時の情報伝達手段の確保対策も課題となっています。

町では、急がれる新たな I P 告知システムの更新整備対策を検討していますが、整備には、多額の整備費用とその新たな財源の確保が必要です。町では、町民生活の「利便性」と「受益者負担」のあり方や 10 月 1 日からの国の消費税の引上げなどの視点から、町民の皆さまのご理解とご協力をいただくことも検討しているところです。

北後志消防組合積丹支署(俵谷支署長・署員17名)は、6月19日、札幌市で『全道消防救助技術訓練指導会』の事前訓練に参加しました。

この事前訓練には、道内の各消防本部からも多くの訓練隊が集まり、今回出場する「ほふく救出訓練」など、全道大会での好成績を目指して厳しい訓練が行われました。

増山訓練隊長は「大会に向けて、6人の隊員が限られた時間の中で訓練に臨みました。大会当日は、自分たちのベストが尽くせるように一生懸命訓練に取り組んでいますので、応援よろしくお願いします。」と意気込みを話していました。

大会は、7月20日に札幌消防学校で行われます。出場する隊員が訓練の成果を發揮し、



▲事前訓練の様子(6月19日・札幌市)

全国大会を目指して活躍できるようにみんなで応援しよう。

第17回 「J.T.の森積丹」 森林保全活動 遊歩道整備・森林調査



▲木の生育状況の調査

6月22日、日本たばこ産業株式会社(J.T.)と協働する「J.T.の森積丹」森林保全活動が催され、山下和人J.T.取締役専務執行役員をはじめとするJ.T.社員やその家族の皆さん、町民など約140人が参加しました。

17回目を迎えた今回の森林

保全活動は、余別川流域エリアを会場に行われました。参加者は森の中の遊歩道にカラマツのチップを敷く『遊歩道整備』や遊歩道内の木の『樹名板の作成』、木の直径や高さを測る『森林調査』に汗を流しました。

午後からは、森の中に数



▲カラマツのチップを敷く遊歩道整備

カ所設けられたクイズのポイントで、森・川・海に関するクイズの答えを全員で協力しながら考え、回答を競い合う「いきものつながりアドベンチャー」が行われ、大人も子どもも森の中を走り回りながら、いきものつながりを学び、森と親しむ楽しい時間を過ごしました。

参加者が心待ちにしていた昼食には、積丹観光協会による、積丹町産の甘エビなどの海産物を贅沢に使ったシーフードカレーが提供され、おかわりに列が出来るほどの好評でした。

今後ともJ.T.の皆さんをはじめ、国・道の関係機関、町民の皆さんの協力で、「J.T.の森積丹・海を育む水源の森」の実現を目指す取組を進めていきます。

